

第2学年1組 国語科学習指導案

授業日 平成27年6月24日(水) 2校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 里村 穰

会場 2年1組教室

1 単元名 読んで考えたことを伝えよう①

教材文「たんぽぽのちえ」(光村図書 二上)

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第2章第1節国語における第1学年及び第2学年の「2 内容、C 読むこと、(1)エ・オ」を受けて設定する。

2 内容 C 読むこと

(1)読むことのできる能力を育てるため、次の事項について指導する。

エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

現行の学習指導要領では、思考力、判断力、表現力の育成を重視して、自分の考えの形成及び交流(指導事項エ・オ)が設けられている。また、思考力、判断力、表現力を育成するために、言語活動例を例示している。「読むこと」では、「本や文章を読んで感想を述べたり考えを表現したりする言語活動例」となっている。

指導事項や、言語活動の例示の意図を考えると、「読むこと」で求めていることは、文章を理解することに留まらない。文章を理解し、文章の叙述を根拠に、自分の知識や経験を理由付けした自分の考えをまとめること、他者と考えを伝え合い、考えの違いに気付いたり、自分の考えを広げたり、深めたりすることを、読むことのできる能力として求めている。

このことから、本単元では、教材文「たんぽぽのちえ」を読むことを通して、次の読むことのできる能力を育む。

・文章と自分の知識や経験とを結び付けて読むことで、大事な言葉や文を判断し、自分の考えをまとめる力

教材文「たんぽぽのちえ」は、タンポポの花が咲き、綿毛となって種子を飛ばし、種族保存をしていることを、タンポポの生長という時間的順序に沿って説明している文章である。

教材文の構成と内容を、以下に示す。

一段落 : (話題提示) 春になると、花が咲く。

二・三段落 : (知恵1) 二、三日経つと、花はしぼんで黒っぽい色に変わり、花のじくは地面にたおれる。けれども、枯れたのではなく、種に栄養を送り太らせている。

四・五段落 : (知恵2) やがて、花は枯れ、白い綿毛ができる。この綿毛は、落下傘のようになり、種を飛ばす。

六・七段落 : (知恵3) この頃になると、花のじくが起き上がり伸びていく。なぜか。背を高くすると、綿毛に風がよく当たり種を遠くまで飛ばすことができるからだ。

八・九段落 : (知恵4) よく晴れて風のある日には、綿毛の落下傘がいっぱい開いて遠くまで飛ぶ。しかし、湿り気の多い日や雨降りの日には、すぼむ。綿毛が湿って重くなると、種を遠くまで飛ばすことができないからだ。

十段落 : (まとめ) このように、いろいろな知恵を働かせて、新しい仲間を増やしている。

教材文は、自分の考えをまとめることにおいて、次の2点で価値がある。

一つは、題材である。教材文「たんぽぽのちえ」は、子どもの身近にあるセイヨウタンポポを題材としている。子どもは、生活経験や生活科の「春探し」の学習経験で、タンポポを見たことがある。読書体験で、タンポポについての知識を得ている子どももいる。教材文を読むことで、種族保存をするためのタンポポの工夫(知恵)に驚いたり、感心したりすることができる。この驚きや感心が、言語活動「タンポポはどんな植物かを読んで考えよう」に応じた読書活動を進める原動力となる。

二つは、種族保存をするためのタンポポの工夫(知恵)が、擬人法を用いるなどして、4つの事例

で紹介されていることである。擬人法が用いられていることで、子どもは、タンポポの工夫（知恵）を人間と関係付けてとらえることができる。タンポポの工夫（知恵）が複数紹介されていることで、事例内容ごとに自分の知識や経験と結び付け、タンポポがどんな植物かを考えていくことができる。

以上のことから、扱う教材文の題材が子どもに身近なものであり、擬人法を用いた事例内容ごとに読書活動を進めることで、自分の知識や経験と結び付けて文章を読み、自分の考えをまとめることができるように、本単元の価値がある。

3 本単元で目指す姿と「中核的な学習内容」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

叙述と自分の知識や経験とをつなぎ、自分の考えをまとめる子ども

言語活動「タンポポはどんな植物かを読んで考えよう」に応じて、教材文「タンポポのちえ」の叙述から書き抜いた大事な言葉や文を根拠に、自分の知識や経験を理由付けした自分の考えをまとめ、自分の知識や経験と結び付ける読み方をとらえている姿

(具体例)：タンポポは、頭のいい植物だと思う。一度たおれたじくを、またおき上がらせるのは、他の花ではしていないことで、風をたくさん受けられるようにしているからだ。

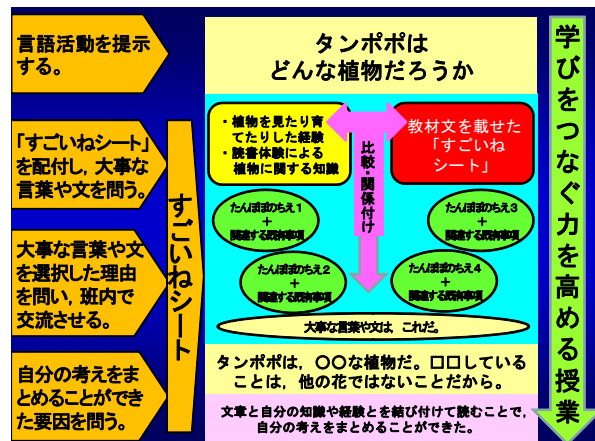
「たんぽぽのちえ」に書かれていることと、自分の知っていたこと（したこと）とをつなげて読むことで、大事な言葉や文が分かり、タンポポがどんな植物かについての自分の考えをまとめることができた。

(2) 「中核的な学習内容」

教材文「たんぽぽのちえ」を読み、タンポポがどんな植物かについての自分の考えをまとめること

(3) 「学びをつなぐ力」

- ①比較するすべを用いて、学習課題を視点に、教材文「たんぽぽのちえ」にある複数の叙述を比べ、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集する力
- ②関係付けるすべを用いて、教材文「たんぽぽのちえ」と自分の知識や経験とを結び付け、叙述から自分の考えの根拠となる言葉や文を判断する力



4 指導計画 全6時間 (180)

単元カード参照

5 指導の構想

単元の導入時、まず、教材文の題名「たんぽぽのちえ」と、タンポポの写真とを提示する。こうすることで、子どもは、「タンポポは、綿毛になる」「いろいろなところでタンポポを見たことがある」などのタンポポについての知識や経験を想起する。同時に、「タンポポには、どんな知恵があるのかな」などの疑問や、「タンポポにはどんな知恵があるのか知りたい」などの思いを表出する。この段階で、教材文「たんぽぽのちえ」全文を提示して読ませ、初発の感想を記述させる。すると、子どもは、「タンポポがいくつも知恵をもっていることを初めて知った」「タンポポってすごいなと思った」などの、タンポポに対する驚きや感心を表出する (C0)。

このような驚きや感心を表出した子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

言語活動（「タンポポはどんな植物かを読んで考えよう」）を提示する。

文章を理解する読書活動の目的に、「タンポポがどんな植物かを考える」という自分の考えをまとめる読書活動の目的を付加し、問いをもたせるための働き掛けである。

初読の段階では、子どもは、「タンポポにはどんな知恵があるのかを知る」ことを目的に読書活動

を行っている。このような子どもに、「タンポポはどんな植物かを読んで考えよう」という言語活動を提示する。提示されることで、子どもは、「タンポポってどんな植物といえるだろう」という疑問や、「きっと、〇〇な植物ではないかな」などの予想をもち、つぶやいたり、発言したりする。このような子どもに、この段階での自分の考えを「はじめシート」に記述させる。

自分の考えの根拠と理由付けが明確に記述されていない子どもを、問いをもった子どもの姿とみなし、次のように働き掛ける。

働き掛け2

「すごいねシート（対象）」を配付し、大事な言葉や文がどれかを問う。

自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集させるための働き掛けである。

まず、「すごいねシート（対象）」を配付する。このシートは、教材文「たんぽぽのちえ」の文章全文を上段に載せ、中段に収集した言葉や文を書き出す欄を、下段に言葉や文を選択した理由を書く欄を設けたシートである。このシートを用いることで、叙述を基にした自分の知識や経験を表出させ、文章と自分の知識や経験とを結び付けていることを視覚的にとらえさせることができる。

次に、「タンポポがどんな植物かを考えるときに、大事だと思う言葉や文はどれか」と問い、配付したシートの中段の欄に、選択した言葉や文を書き出すように指示する。すると子どもは、**比較するすべ**を用いて、「タンポポはどんな植物か」という視点で教材文の文章に書かれている複数の言葉や文を読み比べ、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を書き出す。なお、この働き掛けは、タンポポの工夫（知恵）についての事例内容（①種を太らせる②種を飛ばす③種を遠くへ飛ばす④天候によって綿毛の開き方を変える）ごとに行う。

自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を収集した子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け3

大事な言葉や文を選択した理由を問い、班内で交流させる。

自分の考えの根拠となる言葉や文を判断させるための働き掛けである。

まず、事例内容ごとに複数の大事な言葉や文をシート中段に書き出した子どもに、「その言葉や文が大事だと思ったのは、どうしてか」と問い、シート下段に選択した理由を記述させる。すると子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、それぞれのタンポポの工夫（知恵）の文章と自分の知識や経験とを結び付け、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文を選択した理由として、選択した言葉や文に関連する自分の知識や経験を想起し、シート下段に欄に記述する。このときの子どもは、他の人はどの言葉や文をどのような理由で判断したのかと気になっている状態である。

そこで、次に、選択した言葉や文と判断した理由とを班内で交流させる。班内で、どの言葉や文をどのような理由で選んだのかを交流させることで、子どもは、自分の選んだ言葉や文の妥当性を検討する。そして、同じ言葉や文を選んだ友達の原因を聞いて納得した子どもは、「タンポポがどんな植物かを考えるときに大事な言葉や文は、やっぱりこの言葉や文だ」などととらえる。また、違う言葉や文を選んだ友達の原因を聞いて納得した子どもは、「この言葉や文が大事だな」などととらえ直す。班内で友達と交流し、選んだ理由に納得することで、自分の考えの根拠となる言葉や文を判断していく。

なお、働き掛け3は、働き掛け2と連動させ、タンポポの工夫（知恵）の事例内容（①種を太らせる②種を飛ばす③種を遠くへ飛ばす④天候によって綿毛の開き方を変える）ごとに行う。

そして、事例すべてを学習した後に、再度、言語活動「タンポポはどんな植物かを読んで考えよう」を提示し、自分の考えを「まとめシート」に記述させる。

自分の考えをまとめ、表出した子どもに、次のように働き掛ける。

「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛け

自分の考えをまとめることができた要因を問う。

「学びをつなぐ力」の自覚を促すための働き掛けである。

自分の考えをまとめ、表出した子どもに、「どのように選んだことで、自分の考えをまとめることができたのか」と問い、「まとめシート」に記述させる。子どもは、「『たんぽぽのちえ』に書かれていることと、自分の知っていたこと（したこと）とをつなげて選んだことで、大事な言葉や文が分かり、タンポポがどんな植物かについての自分の考えをまとめることができた」などのように「学びをつなぐ力」を自覚し、**叙述と自分の知識や経験とをつなぎ、自分の考えをまとめる子ども（Cn）**となる。

6 本時の構想 (本時 3 / 6時間)

(1) ねらい

関係付けるすべを用いて、意味段落4(形式段落6・7)、意味段落5(形式段落8・9)それぞれの文章の叙述と自分の知識や経験とをつなぎ、叙述から自分の考えの根拠となる言葉や文を判断することで、「タンポポはどんな植物か」についての自分の考えをまとめることができる。

(2) 主張(展開) 3Q(45分)

このように子どもに(C0)

- タンポポ等の植物に関連する読書体験等で、植物についての知識がある。
- 生活経験や生活科の学習経験などでタンポポ等の植物を見た経験がある。
- 初読の感想で、タンポポに対する驚きや感心を表出している。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- ・説明「前の時間に、『たんぽぽのちえ』を読んで、初めの感想を書きましたね」
- ・説明「みんなの感想を読むと、『タンポポってすごいな』と思っている人がたくさんいました」
- 説明「今日は、これから、みんながすごいと思っているタンポポってどんな植物かを考えましょう」
 - ※言語活動「たんぽぽはどんなしよくぶつかを読んでかんがえよう」を、学習のめあてとして黒板に板書する(☆印を付け、四角囲み)。
 - ※言語活動を知り、「タンポポってどんな植物だろう」などの疑問や、「きっと、○○な植物ではないかな」などの予想のつぶやきや発言を拾い、全体に返す。
- 発問「あなたは、タンポポはどんな植物だと思いますか」
 - ・指示『「はじめシート」』の2番に、あなたの考えを書きましょう」
 - ※「はじめシート」を配付し、記述する欄を示す。
 - ※「はじめシート」の1番の欄には、初読の感想が記述されている。

このようになり(C1)

- 言語活動を知り、「タンポポはどんな植物か」についての疑問や予想をもつ。
 - ・「たんぽぽのちえ」を読んで、タンポポのことで初めて知ったことがあるけれど、タンポポはどんな植物といえるのかな。
 - ・きっと、タンポポは、○○な植物なのではないかな。
- 「はじめシート」に、この段階での「タンポポはどんな植物か」についての自分の考えを表出する。
 - ・タンポポは、すごい植物だと思う。⇒(根拠と理由付けがない記述)
 - ・タンポポは、種を遠くに飛ばす植物だと思う。⇒(根拠のみの記述)

【通過基準】

働き掛け1を受け、_____のように、「はじめシート」に根拠と理由付けの両方がない記述をした子どもを問いをもった姿とみなし、働き掛け1通過者とする。

※この段階で、根拠と理由付けの両方を明確に記述している子どもは、検証対象から外す。

本時ここから

このように働き掛けると【働き掛け2】

- ※本時は、意味段落4(形式段落6・7)、意味段落5(形式段落8・9)を扱う。
- ・説明『「たんぽぽのちえ」』の学習の続きです。この学習のめあては、これでしたね」
- ※言語活動「たんぽぽはどんな植物かを読んで考えよう」を、学習のめあてとして黒板に板書する(☆印を付け、四角囲み)。
- ・説明「これから、『すごいねシート(「対象」)』を配ります」
 - ※「すごいねシート」(「対象」)を配付する。
- ・説明「今日は、6段落から9段落までを読んで考えましょう」
- ・指示「上の欄にある6段落から9段落までの文章を、みんなで声に出して読みましょう」
 - ※意味段落4・5の文章を一斉音読させる。
- 発問「タンポポがどんな植物かを考えるときに、大事だと思う言葉や文はどれですか」

- ・指示「6・7段落の中で、大事だと思う言葉や文をシートの中段の欄に書き出しましょう」
※予め拡大して掲示しておいた「すごいねシート」（「対象」）で、書き出す欄を示す。
- ・指示「8・9段落の中で、大事だと思う言葉や文をシートの中段の欄に書き出しましょう」
※予め拡大して掲示しておいた「すごいねシート」（「対象」）で、書き出す欄を示す。
- ・指示「どの言葉や文を書き出しましたか。教えてください」
※発言で挙げられた言葉や文を、拡大した「すごいねシート」（「対象」）に傍線を引いて示す。

このようになり (G2)

- 比較するすべを用いて、「すごいねシート」（「対象」）に載っている意味段落4・5の文章を比べ読み、タンポポがどんな植物かを考えるために大事な言葉や文をシート中段に書き出す。

(意味段落4)

- ・たおれていた花のじくが、またおき上がります
- ・せのびをするように、ぐんぐんのびていきます
- ・せいを高くする
- ・たねをとおくまでとばす

(意味段落5)

- ・よく晴れて、風のある日には、わた毛のらっかさんは、いっぱいひらく
- ・しめり気の多い日や、雨ふりの日には、わた毛のらっかさんは、すぼむ

【通過基準】「学びをつなぐ力」①

_____のように、働き掛け2を受けて、タンポポの様子を表す言葉や文、様子の理由を表す言葉や文を、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文として「すごいねシート」（「対象」）の中段に書き出している子どもを、通過者とする。※書き出す言葉や文の数は、問わない。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- ・説明「大事だと思った言葉や文をいくつか見付けたみたいですね」
- 発問「その言葉や文が大事だと思ったのは、どうしてですか」
- ・指示「その言葉や文が大事だと思った理由を、シートの下段の欄に書きましょう」
※指示とともに、拡大した「すごいねシート（「対象」）」の下段を指し示す。
- ・説明「他の人が、どの言葉や文をどうして選んだのか気になっているようですね。それでは、これから、どの言葉や文をどうして選んだのか、班の人と紹介し合います」
- ・説明「班の人と紹介し合って、大事だと思う言葉や文に赤鉛筆で○を付けましょう」
- ・指示「それでは、机を班の形にして、紹介タイムを始めましょう」
- ・指示「どのような理由がありましたか。教えてください」
※数グループから発言させ、発言内容を板書にまとめる。
- ・説明「いろいろな理由から、大事な言葉や文を選んだんですね」
- ・説明「『たんぼぼのちえ』の学習のめあては、『タンポポはどんな植物かを読んで考えよう』でした」
- 発問「あなたは、タンポポはどんな植物だと考えますか」
- ・指示「あなたの考えを、これから配る『まとめシート』の1番に書きましょう」
※「まとめシート」を配付する。
- ・指示「タンポポがどんな植物だと考えたのか、まとめたあなたの考えを教えてください」
※数人を指名し、自分の考えを発表させる。

このようになり (G3)

- 関係付けるすべを用いて、意味段落4・5それぞれの文章と自分の知識や経験とを結び付け、選んだ理由を記述し、班内で紹介し合うことで、自分の考えの根拠となる言葉や文を判断する。

(意味段落4)

- ・わたしは、「おき上がる」が大事だと思いました。理由は、私の知っている他の花では、一度たおれて、またおき上がることをしていないからです。
- ・わたしは、「せのびをするように」が大事だと思います。理由は、他の花と違ってタンポポが人間みたくにしているからです。

(意味段落5)

- ・わたしは、「晴れの日にわた毛のらっかさんがいっぱいひらく」ということが大事だと思います。わけは、(人間と同じように) 天気予報をしているみたいだからです。
- ・わたしは、「しめり気の多い日や、雨ふりの日には、わた毛のらっかさんはすぼむ」ということが大事だと思います。理由は、「晴れの日」を選んだ人と同じです。

○ 自分の考えをまとめ、表出する。

- ・タンポポは、頭のいい植物だと思います。一度たおれたじくを、またおき上がらせるのは、他の花ではしていないことで、風をたくさん受けられるようにしているからです。
- ・タンポポは、すごい植物だと思います。晴れの日と雨の日とでかさをいっぱい広げたり、すぼめたりして、(人間と同じように) 天気予報をしているみたいだからです。

【通過基準】ア：「学びをつなぐ力」②，イ：中核的な学習内容

ア のように、働き掛け3を受けて、自分の考えの根拠となる言葉や文を判断する際に、自分の知識や経験を想起して文章と結び付けている子どもを、通過者とする。

イ のような叙述を根拠に、..... のような自分の知識や経験を理由付けした..... のような自分の考えをまとめている子どもを、「中核的な学習内容」を創り出している姿とする。

このように働き掛けると【「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛け】

- ・説明「タンポポはどんな植物か、自分の考えをまとめることができましたね」
- 発問「あなたは、どのように読んだことで、自分の考えをまとめることができたのですか」
- ・指示「『まとめシート』の2番のところに書きましょう」

このようになる (Cn)

- 自分の知識や経験と結び付ける読み方をすることで、大事な言葉や文が分かり、自分の考えをまとめることができたこととらえる。
- ・「たんぽぽのちえ」に書かれていることと、自分の知っていたこと(したこと)とをつなげて読んだから、大事な言葉や文が分かり、タンポポがどんな植物かについての自分の考えをまとめることができた。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、..... のような叙述を根拠に、..... のような自分の知識や経験を理由付けた、..... のような自分の考えをまとめることができたかを、「まとめシート」の記述から検証する。
- ②-1 「学びをつなぐ力」①について
働き掛け2を受けて、比較するすべを用いて、..... のように学習課題を視点に文章の複数の叙述を読み比べ、タンポポの様子を表す言葉や文、様子の理由を表す言葉や文を、自分の考えの根拠となりそうな言葉や文として収集しているかを、「すごいねシート」の記述から検証する。
- ②-2 「学びをつなぐ力」②について
働き掛け3を受けて、関係付けるすべを用いて、..... のように文章と自分の知識や経験とを結び付け、叙述から自分の考えの根拠となる言葉や文を判断しているかを、「すごいねシート」の記述から検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛けを受けて、..... のように想定した「学びをつなぐ力」を自覚しているかを、「まとめシート」の記述から検証する。

※上記①②③すべての検証を通過したら、表れありと判断する。

